1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092200140		
法人名	株式会社 雄 清		
事業所名(ユニット名)	グループホーム なかはや		
所在地	和歌山県田辺市中芳養 917-7		
自己評価作成日	平成27年3月25日	評価結果市町村受理日	平成27年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成27年4月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者、家族から安心安全だと評価していただける施設作りを目標として取り組んでいます。地域の方にもっと認知され、必要とされるよう、積極的に関わりを持つように努めています。医療関係との連携をとり、重度化や終末期に対応できるよう取り組んでいます。利用者本位を心掛け、外出の希望のある時は優先し、今までの過ごし方や、よく行った馴染の店などへ出掛けられるよう支援しています。室内に閉じこもる事の無いように、近くへ散歩に出たり、玄関先のプランターに、季節の野菜や花を一緒に植えたり、外へ出るように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設3年が経過し、違和感なく地域に馴染んでいる様子が窺える。管理者は異業種からの参入であったが、高齢者福祉に携わる中で考え方が大きく変わったと述懐される。又、職員から教わることも多くあったと振り返る中で、職員と共に事業所理念を見直し、利用者が地域の中でその人らしい生活が送れるよう支援していくという理念をつくりあげた。また、理念達成の為に「1、利用者満足 2、家族満足 3、職員満足」と具体的な方策を掲げ、実践に向けて取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	大きな意味では共有し、実践できている。事業所理念を更に実践できるよう具体的な表記にする工夫が必要である。	開設時の理念を見直し、管理者・職員で話し合っって具体的に練り上げた新たな理念を作り、全員で共有する中で利用者一人ひとりがその人らしい生活が送れるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の幼稚園の園児が歌を歌いに来てくれて一緒に手遊びをしたり、地域の祭りの時には馬を玄関先に連れてきてくれて馬子唄を歌ってくれている。又、地域の小中学校の見学なども受け入れている。	事業所は地域の一員として、神社の祭りを楽しんだり、幼稚園児や小学生の訪問を受け交流の機会を持っている。又、近隣を散歩中には知り合いに出会ったり、地元の方に話しかけてもらったりと日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の勉強会を、地域の敬老会の方に参加して頂いたことがある。運営推進会議で今後の勉強会の開催を提案している。小学校の体験学習の受け入れや地域の方に来ていただいたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、利用者の状態や施設の取り組みなどを報告し、意見を頂いている。会議での意見は職員会議や朝礼等で伝達し、実践につなげるように努力している。	運営推進会議は2か月に1回、町内会長や区長、老人会会長、民生委員及び行政職員の参加を得て開催している。家族には毎回、運営推進会議の目的や内容等の説明も含めた案内文を送り参加をお願いしており、時には参加して頂いている。又、議事録も毎回郵送し意見聴取の機会とし、次回に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員に運営推進会議に出席してもらい、その際に、事業所の実情や取り組みを話して意見などをいただいている。	運営推進会議には行政職員の参加を得ており、日常的にも取り組みの報告や相談等が出来る関係にあり、協力を得てサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を行っている。玄関は夜間以外は開けて自由に行き来が出来るようにしている。天気がいい日には一人で散歩をしたり自由に過ごせるようにしている。	管理者・職員共に身体拘束をしないケアの実践について正しく理解している。又、鍵をかける事の弊害を十分に理解しており、日中は玄関を開けて自由に出入り出来るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などに参加し、伝達講習や勉強会などを行い虐待が起きないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等に参加し、制度の理解に努めているが、深く理解できていないこともあり、今後とも学んでいく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時や法改正等により改定がある場合は、その都度、家族に説明し、疑問や相談があるときは常時受け付け対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議等の家族の参加が少なく、意見を伺う機会は少ないが、面会時に要望等を聞かせていただいて運営や日々の業務に活かせるようにしている。	利用者の意見は日常の会話から聞くように努めている。家族には個別に作成した1カ月分の日記等を送り一人ひとりの暮らしぶりを報告し、面会に来られた時に要望や意見を聞くように努めており、出された意見等を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回会議を行い、職員からの意見や要望などを聞いたり、年に何回か個人面談を行い職員の意見を聞く機会を多く設けて反映するように努めている。	月1回の定例会議で職員の意見や要望、提案等を聞き改善に努めている。また、管理者は職員の意見や思いをじっくり聞くため、十分に時間を取り個人面談を行っており、それらを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	十分に把握できていないところもあるが、給与、労働時間、職場環境は、出来る限り劣らないように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に合った研修に積極的に参加してもらったり、施設内でも勉強会を行い質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日頃の他の事業所との交流などはないが研修などを通じて他の事業所の状態やいいところなどを聞いてきて自施設でいいところは取り入れて行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談があった時点で本人や家族が困っている事不安なことを聞き、どうしたらいいか一緒に考えるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、在宅で生活するうえでどのようなことが問題なのか、要望なども聞きながら、施設の対応方法・終末期の話など不安な部分や聞きたい部分は、出来るだけその時に話し合いが出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況等を聞き取り、必要な支援と他に出来る支援があれば提案し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のように感じてもらえるよう心掛け、対等な立場であることを意識している。出来ないことは一緒にしたり、先に介助してしまうのではなく、「待つ介護」を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族を呼んでバーベキューを行ったり、本人の体調が悪い時には連絡をして見て頂いたり、本人も安心して過ごせるように支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの通っていた理髪店や美容室に通ったり、よく行ったお店などに買い物に行ったりと入所する前に行っていたことを出来るだけ続けられるように支援を行っています。	理髪店や美容院は一人ひとりの希望を聞いて馴染みの店に送迎したり訪問して貰ったりしている。また、よく買い物をしていた店にも職員と一緒に出かけている。手紙や電話で知り合いとの交流を継続する等、関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しない、トラブルにならないよう、職員が入って取り持つようにしている。また、相性等も考えながら席の配置やドライブするときのペアリングに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関へ入院して契約終了した場合、引き続き状態を伺いに面会に行ったり、医療機関や家族から話を聞かせていただき、関係性を保つようしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話から本人の思いをくみ取れるように記録を書くようになっている。本人の思いを職員全員で共有し本人にとってどうしたらいいかを話し合っている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握する為にセンター方式のシートを活用しており、日常の会話等から聞き出せるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴は家族から話を聞いているが、日々の会話の中での話などを聞きながら今までの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何がしたいか、何が必要かを聞き取り、観察することで一人一人の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回職員間で会議を行い、ケアの検討を行っている。面会に来る家族には、その都度本人の状態を話し、生活の中でどのようなことが出来るか、何を望んでいるかなどを話すように努めている。	本人の希望や意向を尊重し、関係者の意見等も取り入れて十分に話し合いを行い、介護計画を作成している。月1回の会議では利用者一人ひとりの状況を確認し見直しの必要性を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し職員で情報の共有を行っている。月1回会議を持ち、本人の気持ち、ケアの見直しなどを行いより良いケアを目指している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の思いに重点をおいて、自宅に帰りたいと希望される方には、家族と相談して自宅までの送迎を行ったり、会いたい人がいる人には、会いに行けるように連絡を入れたりして、その時の希望に沿って支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周囲には田園、梅畑があり、梅林の時期には散歩しながら花見をし梅農家を営んでいた利用者から色々と話して下さる。秋祭りの時期には、青年団の方が馬を連れてきて下さり、馬子唄を聞かせて頂き感動される方もいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を希望される方は、今まで通りの受診をしている。重度化や病状の変化で、他の病院や他の診療科にかかる際には、家族と本人の意思を聞いて、納得したところに受診するように努めている。	受診は本人及び家族の意向を重視し、以前からかかっている病院や専門科への受診を支援している。連携医の往診や訪問看護ステーションからの訪問も受けており、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回と必要時に訪問看護師が、入居者の健康管理や病気などの早期発見、また相談者として来てくれている。入居者の話はもちろん、職員がケアするにあたって医療に関することの相談やアドバイスにのってくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療連携室への情報提供を行ったり、本人に面会するなどして、本人の状態の把握に努めている。退院時には、カンファレンスを依頼し、退院後の注意事項、入院中の様子などを教えて頂き、帰園してから職員で情報を共有する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問看護ステーションと契約をして、日常生活の小さな変化に気が付き、早期に医療機関へ繋がれるように連携を取っている。重度化した場合には、家族と十分に話し合いをしながら終末期に向けて支援を行っている。	重度化及び看取りに関する対応指針を文書化しており、家族に説明し医療連携体制を強化することに同意を得ている。実際に看取りを行った経験はあるが、今後積極的に取り組んでいくには体制が不十分であると認識している。	重度化した場合にも家族や専門職との連携で不安なく対処できるように、夜間急変時の対応や死生観教育など看取りに関する必要な研修を積み、さらに職員の資質向上に取り組まれることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回救命救急士による講習を行っている。職員全員が心肺蘇生法とAEDの使用方法を学んで実践している。救急車の呼び方や誤嚥時の対応などについても、対応の方法を講習して頂いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。地域の方々にも運営推進会議を通じて災害時の協力をお願いしている。近隣の方にも避難訓練などの時には声をかけて参加して頂けるようお願いをしている。	年2回、消防署立会いの元で夜間の火災を想定した避難訓練を行っている。又、地震や津波の場合についても話し合い、水や食料の備蓄を行っている。運営推進会議においても検討を重ねており地域の協力が得られる体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助の際、男性と女性の拘わり方に配慮し、入浴、トイレ介助などもプライバシーの保護に努めている。出来るだけ同性介護を基本に行っている。話し方や声掛けなども伝え方を意識して、誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。	職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねる事が無いよう、十分に配慮した言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るよう、本人が選択できるような尋ね方をし、どちらでもと言う場合は、提案するような形で声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気がいい日には外出支援を行ったり、自宅に帰りたいと言われる方には家族と連絡を取り自宅へ帰る支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には服を選んでもらいそれを着て外出している。髪をといたり、同じ服装にならないよう声掛けし、出来る方には本人に決めてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞いて出来るだけ希望に添えるようにしている。食事の下ごしらえや盛付など、下膳、食器洗いも一緒に行うようにしている。	食事が楽しみなものになるよう、利用者の好み等に配慮したメニューを取り入れている。又、プランターで栽培し収穫した野菜や近隣から頂いた旬の野菜を使い、下ごしらえや盛り付けなど可能な部分は利用者にも手伝って貰う等している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の食材を使用して調理を行うようにしている。10時と15時に水分補給をするようにしているが、その日の状態に応じて随時水分摂取をするようにしている。また薄味を心がけ減塩醤油を使用し健康管理にも気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行っている。一人一人に応じて入れ歯洗浄剤を使用したり、ポリグリッブを使用している。入れ歯に不具合がある時には歯科受診をして食事を美味しくとれるように気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所前にはオムツを着用していたが、入所してからはオムツを使用している人はなく、紙パンツを使用しトイレ誘導を行っている。日中はパットを使用せず、こまめにトイレの声掛け誘導を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄ができるように声掛けする等、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように水分を多くとるように心がけ、ヨーグルトやバナナを食べたり、日中は園の前を散歩するように声掛けをして一緒に歩いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3日～毎日個々に応じて入浴をしている。入浴時間は午前中の方や晩酌をするので入浴前に入られる方や寝る前に入られる方と希望に応じて入浴を実施している。	自宅で過ごされていた頃の習慣をそのまま続けられるように、朝風呂や就寝前、晩酌の前など一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や体調、今までの生活習慣を考慮して、その人に応じて休息したり、睡眠前に入浴の方が良く眠れる方には入眠前に入浴介助を行い、気持ちよく入眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに薬の説明書を挟んで、いつでも見られるようにしている。自己管理できる方には自分で管理をしてもらい服用する前に確認させていただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を参考に、施設で出来る役割は積極的に行ってもらっている。ミシンの上手な方にはランチョンマットの作成、量の管理をしながら晩酌したり、料理好きの方には一緒に料理したり、プランターで野菜や花などを植えて、毎日散歩時に見えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々生活する中でどこに行きたいなどの話が出た時には、施設で行ける範囲は職員と出かけたりしている。遠方への希望は家族に行きたいとの希望あることの話をして相談している。	日常的に花や野菜の水やりを楽しみ、近隣へ散歩に出かけている。又、温泉の足湯を楽しんだり、お花見や公園、遠方までドライブしたりと出来るだけ戸外で過ごせる時間が持てるよう、積極的に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度の現金を自分で管理をされている。入居者が欲しいものがある時には自分で管理されている中から支払いをしている。職員は見守りを行い出来ない時には声をかけたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今までのつながりを大切に、年賀状を書ける方には年末になると声をかけたり、家族と話がしたいと言う方には電話で話をしたり出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を置いたり塗り絵の作品をローカに貼りだしている。温度は冷暖房で調節し1日1回以上は換気をするようにしている。周囲が田園なので、外出することで季節を感じる事ができる。トイレは次の人が不快にならないよう使用後チェックしている。	玄関には幼稚園児が作ったどんぐりと松ぼっくりのオブジェが置かれており、プランターには夏野菜が植えつけられている。居間は食堂を兼ねており、カウンター越しに調理の様子が見て取れる等、生活感を味わえて居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で食事の机を一緒にして、安心して食事などを楽しめるようにしている。施設のリビングは広くないので、その分外へ出る機会を増やしたり、残存機能の維持も含め、散歩などにも出来るだけ行けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を持ち込んでいただいたり、部屋が分からない利用者には部屋の入口にお気に入りの服で作ったのれんを使用したり馴染みのものを持って来て頂いている。家族の写真や愛用の椅子を持って来て頂いている。	入居時には使い慣れた物や好みの物を持ってきて貰えるように働きかけている。利用者のいらなくなった衣服をリフォームして居室入口の暖簾にしていたり、使い慣れたイスを設置したり、家族の写真を飾る等、落ち着いた雰囲気に整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の生活リズムを最優先し、出来ることは自分でして頂く。トイレや居室などに造花や張り紙で目印をしてわかりやすいようにしている。		